



写真 本を読む市内の小学生。本の森と同じように好きな本を好きな格好で読んでもらいました。本の森完成後、子どもたちはどんな姿を見せてくれるのでしょうか。

# 特集 子どもの想像力と創造力を育む所 こども本の森 遠野

## 本の森とは？

本が森のように広がる施設  
どんな場所でもどんな格好で読んでもいい  
子どもたちに読んでほしい本をたくさん集めた、子どもが本に出会える施設  
豊かな心、想像力と創造力を育む



図\_ 建築家・安藤忠雄<sup>ただお</sup>さんが描いた本の森遠野のイメージスケッチ

大阪の下町で育った安藤さんは、幼い頃ほとんど本を読むことがなかったと振り返っています。文化的な環境が身近になかったからです。読書の大切さに気付いたのは大人になってから。本を読み、独学で建築を学びました。本を何冊も携え、世界を巡る建築の旅も経験。気が付いたことは、「本を読むこともまた、世界を広げてくれる心の旅」ということ。もっと若い時に読んでいれぼと思うような本との出会いもあったそうです。自身の経験をもとに手掛けているのが「本の森構想」。構想の目的は「次の世代につなげる。未来を担う子どもを育てること。その想いを形にしたのが本の森。人間の成長にとって、最高の栄養は本だと考えているからです。」

未来を担う子どもたちへ。  
世界的建築家・安藤さんの想い

安藤さんは1995(平成7)年、建築界のノーベル賞と称される世界的な建築賞「プリツカー賞」を受賞するなど、日本を代表する建築家の一人です。

を担う子どもたちの想像力と創造力を育む居場所▽本を中心とした新たな復興のシンボルをつくることを整備の柱としています。また、本の森遠野は遠野だけの施設ではなく、沿岸被災地や世界との文化のネットワークを作る拠点となることを目指しています。

本とふるさと。  
未来へつなぐ、文化復興拠点

本の森遠野のコンセプトは「本とふるさと。未来へつなぐ文化復興拠点」。『遠野物語』を生んだ日本のふるさと、震災復興拠点となったこの地で脈々と伝承されてきた古きよき文化を土台に、▽未来

子ども向けの本の施設  
「こども本の森」が遠野にできる

「こども本の森」(以下、本の森)の整備が、大阪市、神戸市に続く全国3カ所目として、ここ遠野で始まります。

本の森は、建築家・安藤忠雄<sup>ただお</sup>さんから本市に提案のあった子ども向けの本の施設で、安藤さんが設計・建築し、建築費用の大部分を安藤忠雄建築研究所が負担。完成後、本市に寄付されます。名称は「こども本の森遠野」とし、来年7月のオープンに向け、準備が進んでいます。

本との出会いを  
未来を担う子どもたちへ！

世界的建築家・安藤忠雄さんから提案のあった「こども本の森」の整備が本市で始まります。次の時代を担う子どもたちの成長を願う安藤さんの想いと、「こども本の森遠野」の整備について紹介します。



市こども本の森構想推進室  
室長  
佐々木 真奈美

### 子どもたちの豊かな心を育む

子どもたちが本に出会える施設、本の森が世界的建築家・安藤さんから遠野に贈られます。安藤さんの想いと共に、遠野、東北、全国、たくさん子どもたちが日本のふるさと遠野で本や文化に触れ、豊かな心を育み、世界を舞台に活躍する大人に成長してほしいと願っています。子どもたちの笑顔があふれるよう、皆さんと一緒に本の森を育てていきたいと思っています。



1・2\_ 昨年、あえりあ遠野で開かれた「安藤忠雄氏講演会 at 遠野市」で講演する安藤さん。市内外から600人以上が訪れ、会場を埋め尽くしました 3\_ 安藤さんは、講演会前に旧三田屋を視察。古民家を活用した本の森建築が提案されました

### 本は宝、スマホの時間を半分にして本を読ませる仕掛けが必要



## 主な経過

- 令和元年 1月 「本の森構想」が遠野文化研究センター赤坂所長と同西館顧問を介して市に提案される
- 7月 市長が安藤忠雄建築研究所を訪問。安藤さんから「こども向け本の施設」を寄贈したいとの申し出を受ける
- 8月 「安藤忠雄氏講演会 at 遠野市」を開催。講演会前に安藤さんが本市の街並みを視察
- 11月 市こども本の森構想推進準備室を設置
- 令和2年 1月 「こども本の森構想第1回懇談会」「同構想ワーキンググループ合同会議」開催(10月までに、懇談会を計3回、ワーキンググループ会議を計8回開催)
- 9月 市議会9月定例会で「負担付きの寄附を受けること」について議決され、本の森整備が本格的に始まる

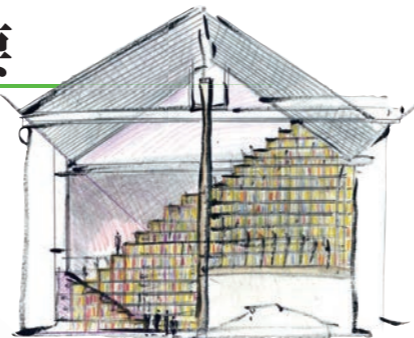
## 今後の予定

- 令和2年10月 **寄付の全国募集** (本や運営資金)
- 着工**
- 令和3年5月 **建物完成**
- 7月 **「こども本の森遠野」オープン**



## 本の森整備概要

- ▷木造地上2階建て、1棟
- ▷延べ床約500平方メートル
- ▷吹き抜け構造。らせん階段を2カ所設け、壁一面に本棚が並ぶ
- ▷本は寄付を中心に約1万冊を集める
- ▷中庭や既存の土蔵を生かした多目的スペースを併設
- ▷自治会などに使える活動室も整備



↑イメージ図



本の森は、旧三田屋(右)を改築して整備。明治期の遠野の「町家」が生まれ変わる



### ●Voice 本の森遠野に寄せる想いを聞きました



こども本の森構想  
ワーキンググループメンバー  
**木瀬 公二さん**  
 遠野文化研究センター研究員  
 (元朝日新聞社盛岡総局長)

子どもたちには「世界ってこんなに広いんだ」ということを知ってほしいです。震災後、100以上の国から支援が寄せられました。その国の絵本が展示できたら、震災でつなげた絆を知り、伝えることができるのではないのでしょうか。子どもたちが各国大使館に「本を送ってくれないか」とラブレターを送ってみるのもいいかもしれません。本の森を、自分たちで遠野の自慢の宝物にしていきたいですね。



こども本の森構想  
ワーキンググループメンバー  
**細川 昭子さん**  
 遠野小学校長

子どもは、体験と人との出会いから多くを学び成長していきます。しかし、出会えない人や人があります。本は出会いの可能性を無限に実現させ、さまざまな本を読むほど豊かな学びをもたらしてくれます。復興の中心に子どもがいるという安藤先生の熱い想いあふれる“こども本の森”。その空間で本と出会う子どもたちが、強くしなやかに成長し、未来を支える人材になっていくことを願っています。

なぜ遠野なのか。大阪・神戸に続く「本の森遠野」

大阪出身の建築家・安藤さんと「永遠の日本のふるさと」を掲げる遠野の縁。東北の小さなまちに、本の森構想が寄せられた理由とは。

共通の歩み、想いが巡り会う  
 「本の森遠野」実現への軌跡

大阪や神戸に比べたら小さなまち遠野になぜ本の森ができるのでしょうか。

本の森建築の検討が始まったのは昨年1月。安藤さんと共に、国の東日本大震災復興構想会議メンバーとして活動した遠野文化研究センターの赤坂憲雄所長と同研究センターの西館好子顧問を通じて、本の森構想が市に寄せられました。

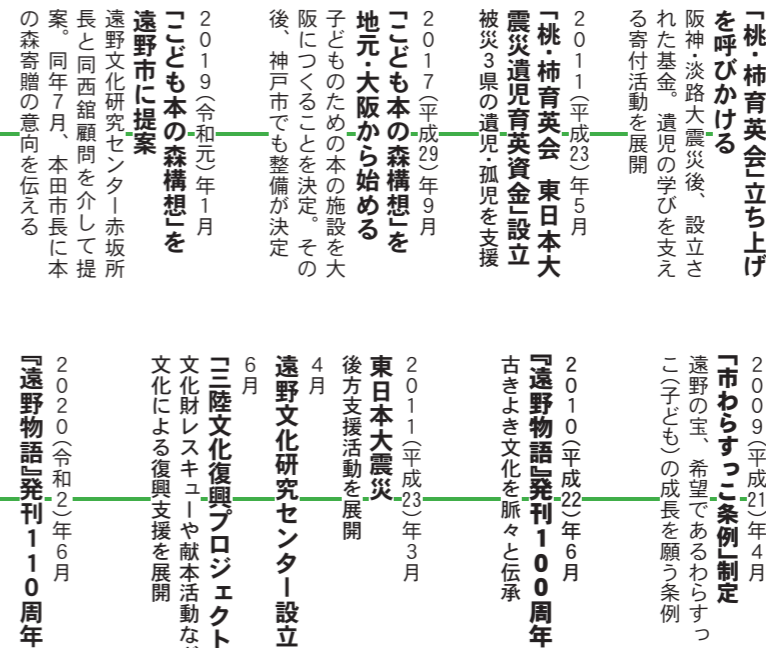
「東北復興のシンボルは子どもたちの未来である」「遠野物語は日本人の心のふるさとである。遠野は文学的に言えば日本で一番有名な場所ではないか」。安藤さんが遠野に本の森構想を寄せるにあたって口にした言葉です。

安藤さんは阪神淡路大震災後、子どもの教育を受け学ぶ意欲を支えるため「桃・柿育英会」立ち上げを発案。東日本大震災(以下、震災)後は、自身が実行委員長を務めた同育英会東日本大震災遺児育英資金を設立し、岩手・宮城・福島の子供に

孤児を支援してきました。被災地の子どもたちに寄り添う安藤さんは、東北にも本の森を贈りたいと考えていました。

震災時、本市では沿岸と内陸を結ぶ拠点として人・物・情報が集まり、官民一体の後方支援活動が行われました。同時に、遠野文化研究センターを中心に「三陸文化復興プロジェクト」を開始。▽郷土資料などを洗浄・修復・保管する「文化財レスキュー」▽全国から寄せられた約28万冊の本を沿岸の図書館や学校などに贈った「献本活動」▽震災を伝える「情報発信」を活動の柱に、文化による復興支援を展開。被災地と共に歩んできました。また、同研究センター設立につながった「遠野物語」発祥の地である本市は、歴史や文化を大切に守り伝え、昔ながらの暮らしや伝統など、子どもの想像力・創造力に影響を与えるものにあふれています。同じ方向へ歩みを進めていた安藤さんと遠野は出会い、新たな絆が結ばれました。そして、文化が息づく本市に本の森整備が提案されました。

## 本の森遠野 整備へ



安藤忠雄さん

「復興」「未来を担う子どもたちのため」。共通の想いを持つ安藤さんと遠野の巡り会い



遠野市



# 建築家 安藤 忠雄さん

Ando Tadao

## Special Message 安藤忠雄さんから 皆さんへメッセージ

遠野市は『遠野物語』を含めて  
日本の文学的に非常にレベルの高い所です

日本をこれから支えていく子どもたちを  
育てなくてはならない

そのためには 今流行のリモートではなく  
遠野のまちを見て 遠野で本を読んで  
遠野の民家を見てまわる中で  
自分たちのまちをこよなく愛する子どもたちが  
育っていかなければならない

そのために私は 遠野に こども本の森が  
できればいいなと思っています

箱はできますが 育てていくのは市民ですから  
市民がこども本の森遠野を  
育てていかなければならない

ここ大阪では大阪の市民がみんな  
子ども達を育てていかなければならない

箱では何もありませんが  
市民がみんな 新しい世界をつくっていこうと  
考えていれば 必ず育っていきますので  
ぜひ 遠野から文化を発信していただきたい

### ●Profile プロフィール

昭和16(1941)年大阪生まれ。17歳でプロボクサーとして活動したのち、独学で建築を学び、昭和44(1969)年「安藤忠雄建築研究所」を設立。  
代表作に「光の教会」「フォートワース現代美術館」「ブント・デラ・ドガーナ」など。昭和54(1979)年、「住吉の長屋」で日本建築学会賞。平成7(1995)年、ブリツカー賞。平成17(2005)年、国際建築家連合(UIA)ゴールドメダル。平成22(2010)年、文化勲章など。受賞多数。  
97年から東京大学教授、現・名誉教授。平成12(2000)年、瀬戸内海の破壊された自然を回復するための植樹活動「瀬戸内オリーブ基金」を設立。平成23(2011)年「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長

想いを共に、形に。

## 東北復興のシンボルは こどもたちの未来

復興支援を通じて安藤さんと遠野は巡り会い、本の森はつくられます。「東北復興のシンボルはこどもたちの未来である」。安藤さんの想いと共に、未来を担う子どもたちを育てる居場所づくりが始まります。

かけがえのない出会いと感動を  
子どもたちに。

本の森遠野をつくる場所は、明治期以降の町家の面影を残す「旧三田屋」(二日市通り)。かつて、住民が晴れ着を買う所でした。施設は同所を解体し、生かせる部材を最大限活用。古民家の雰囲気を残して子どもたちが本と出会う空間に生まれ変わります。

安藤さんの想いと共に東北に初めて贈られる本の森。今から、想いを形にする本の森整備が本格的に始まります。本の森遠野が完成する来年、東日本大震災から10年が経ちます。震災を風化させず、記憶・教訓を伝承していくための「文化復興拠点」となることも期待されています。沿岸と内陸を結び、人と人をつなぎ、恵まれた文化の中で次の時代をつくる子どもたちの豊かな

心を育てていきましょう。

本の森の運営方法や沿岸被災地との関わりなどは現在も、市民や県内外の有識者で構成された「こども本の森構想懇談会」や「同構想市民ワーキンググループ」などを中心に熱のこもった議論が交わされています。施設に配架する本や運営などの充実には多くの人の協力が必要で、全国から寄付を募ることとしています。

たった一冊の本が子どもたちの夢や希望を叶えるきっかけになるかもしれません。あるいは、本の森で巡り会う人かもしれません。きっかけをつなぐ可能性を秘めているのが本の森。新たな拠点「本の森遠野」を光り輝かせ、かけがえのない出会いや感動が一人でも多くの子どもたちに訪れる未来を、自分たちのまちをこよなく愛する子どもたちと一緒に育んでいきましょう。

**未** 来を担う子どもたちを育む場「本の森遠野」を将来にわたって運営するため、全国から寄付を募集します。子どもたちの豊かな心、夢や希望を育む居場所づくりに、皆さまのご支援・応援をよろしくお願いいたします。寄付の詳しい内容や申込書の様式は、市ホームページに掲載しています。寄付の前に、ご確認をお願いします。

## 本の寄付

- 募集期間 令和3年1月31日まで
- 募集する本 ①児童図書(絵本、童話、図鑑、知識本など)②比較的新しいもの(目安は、平成12年以降に出版されたもの)③書き込みや汚れ、破れなどが無いもの④原則、個人が私有するもの一 の全てを満たす本
- 寄付の方法 「寄贈申込書」を記入し、直接持ち込みまたは送付(送料は寄付者負担)

## 運営資金の寄付

- 募集額 法人 一口50,000円(年)×3年間  
個人 法人と同じ、または希望額  
※金額は基本額であり、相談に応じます
- 寄付の方法 寄付は随時受け付けます。「申込書」を記入し、メール、FAX、郵送のいずれかで申し込み
- その他 50,000円以上の寄付は法人・個人ともに、お名前を記載した銘板を館内に設置します。その他、詳しい内容は市ホームページまたはお問い合わせください。

■問い合わせ 市こども本の森構想推進室(☎62-2340、〒028-0515 遠野市東館町3番9号) 遠野市こども本の森 寄付 検索